

# 農作物の栽培履歴情報を収集・蓄積する FAX-OCRを活用した栽培管理システム

東日本電信電話株式会社では、農作物の栽培履歴管理と記帳を支援するソリューションとして、FAX-OCRを活用した栽培管理システムを提供している。手軽なFAXを用いて生産者である農家から地域の農協などの生産団体に栽培履歴を送り、FAXサーバでの自動受付とOCRでのデータ入力をサポートする。このシステム基盤に日本ワムネットのエンタープライズFAXサーバソフトウェア「MultiPortFAX 3 Adv.」を採用。柔軟な回線増設やシステム拡張、OCRパッケージとの容易な連携などの特長が評価された。



東日本電信電話株式会社  
ビジネスユーザ事業推進本部  
e-Japan推進部  
アグリビジネス担当  
担当課長  
**大石 浩司** 氏



東日本電信電話株式会社  
ビジネスユーザ事業推進本部  
e-Japan推進部  
アグリビジネス担当  
**小松 健司** 氏



東日本電信電話株式会社  
ビジネスユーザ事業推進本部  
e-Japan推進部  
アグリビジネス担当  
**成田 明基** 氏

## 生産者が手軽に使えるFAXで栽培履歴情報をタイムリーに収集

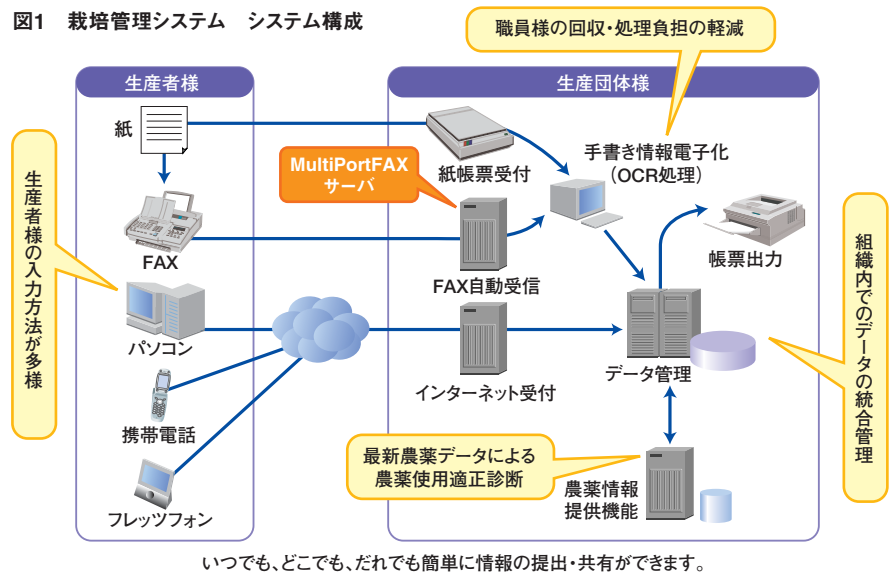
食に対する消費者の関心が高まる中、安全・安心な農作物の提供に向けて、生産者である農家と生産団体の農協などが一体となってさまざまな活動を行っている。農作物の生産段階で使用した農薬や肥料などの情報を文書として記録する栽培履歴の記帳もそのひとつである。「こうした栽培履歴の記帳運動が各地でスタートした当初は、紙ベースで履歴情報が管理されていました。やがてその量も膨大になり、効率的な情報の収集や蓄積などの要望に応えるためのソリューションとして栽培管理システムを提供しています」と、東日本電信

電話株式会社(以下、NTT東日本)アグリビジネス担当課長の**大石浩司**氏は話す。

栽培管理システムは、生産者と生産団体をネットワークで結び、作業時期や作業内容、農薬・肥料の種類や使用量などの記帳(入力)と栽培履歴管理を支援するソリューションである。生産者が入力した栽培履歴情報は生産団体のサーバに転送・蓄積される。生産団体は栽培履歴情報をリアルタイムに確認でき、営農指導などで情報を活用することも可能だ。

栽培履歴の入力には当初、パソコンのWebブラウザや携帯電話などを利用していましたが、年配の生産者の場合、パソコンを所有していなかったり、操作に不慣れな人も少なくないことから、より簡便な入力手

図1 栽培管理システム システム構成



USER PROFILE

**NTT東日本**

東日本電信電話株式会社  
ビジネスユーザ事業推進本部  
e-Japan推進部  
アグリビジネス担当

NTT東日本の農業分野における取り組みは20年以上の歴史を持つ。e-Japan計画およびe-Japan戦略IIで掲げられた「食の安全」など、農業に関するソリューションを生産団体や生産者、農業関連企業などに提供。農産物トレーサビリティソリューションとして、栽培管理システムや農業利用支援システムなどを提供し、アグリビジネスを推進している。

図2 FAX-OCR栽培管理システム

栽培(生産)履歴のFAXによる自動受付とOCRによるデータ入力支援を提供します。

組合員様 (JA様)

提供機能:  
OCRシート取込  
簡易チェック  
栽培履歴蓄積  
蓄積データ出力  
帳票出力  
OCRシートFAX自動送信  
OCRシートFAX自動受信

紙ベースの業務フローを大きく変えずに情報の一歩として取り組みが可能  
NTT東日本が提供する栽培管理システムとの連携による機能拡張に対応  
JAからもFAXを利用した情報提供による情報のフィードバックが可能

段が求められていたという。「もともと栽培履歴の記帳は手書きの紙ベースで行われていました。そこで、年配の方も手軽に使えるFAXとOCRによるシステムの開発を検討することになったのです」と、アグリビジネス担当の小松健司氏は経緯を説明する。

## 回線の増設やOCR連携が容易な「MultiPortFAX 3 Adv.」を採用

NTT東日本では、FAX-OCRを活用した栽培管理システムの提供に向け、国内外のFAXサーバを比較・検討した結果、日本ワムネットのエンタープライズFAXサーバソフトウェア「MultiPortFAX 3 Adv.」を採用した。その決め手のひとつが、ユーザーズに応じて柔軟に回線を増設できることだ。回線インターフェースはINS64、INS1500およびアナログ回線をサポートし、回線の増設はライセンス数の追加で対応できる。

「小規模から大規模なユーザまで対応できることは、FAX-OCRソリューションを提案するうえで大きなアドバンテージになっています」と、アグリビジネス担当の成田明基氏は強調する。例えばA生産団体の場合、INS64を1回線(2チャネル)で約150農家からのFAX受信に対応。また、B生産団体の場合、INS64を5回線(10チャネ

ル)で約1万農家をサポート。「B生産団体では今後、6万を超える農家が利用する計画もあり、専用のハードウェアが不要で回線の増設やシステムの拡張に容易に対応できることもMultiPortFAX 3 Adv.を採用したポイントです」(成田氏)。

また、MultiPortFAX 3 Adv.は、パッケージとしての完成度が高く、簡単にOCRパッケージとの組み合わせができ、FAX-OCRとしての実績が豊富であることを評価。栽培管理システムと連携を図るための必須要件であった最新OSのWindows Server 2003もサポート済みであった。さらに、「MultiPortFAX 3 Adv.の評価版を無償でダウンロードでき、実際に動作を検証することが可能です。日本ワムネットの開発部門はわれわれの質問にも迅速に答えてくれ、サポート体制がしっかりしていることも、ユーザにMultiPortFAX 3 Adv.を推奨するうえで重要なポイントでした」と小松氏は述べる。

## 営農指導やセキュリティなどで広がるFAXサーバの活用

FAX-OCRによる栽培管理システムの利点は、栽培履歴情報の収集・蓄積にかかわる生産団体の職員の業務効率化に加え、万一の問題発生時にもタイムリーな対

応が可能になることだ。

以前は栽培履歴を記帳した用紙の回収に手間がかかり、そのうえ作付けから収穫までの多忙な時期に何度も栽培履歴情報を集めるわけにはいかなかった。また、農作物を出荷後、消費者の手に渡ったあとで問題が判明しても手遅れになりかねない。「農作物の生産工程と栽培情報をリアルタイムにリンクさせるためにも、FAXは有効なコミュニケーション手段となります」と大石氏は指摘する。また、生産者の個人名などが記載された帳票をFAXサーバで一元的に収集することにより、情報管理の徹底によるセキュリティ対策にも効果的だという。

今後、生産団体が生産者に情報を提供したり、営農指導に利用するなど、FAXサーバのさまざまな活用法が検討されている。日本ワムネットでは、NTT東日本とのパートナーシップのもと、MultiPortFAX 3 Adv.を通じた食の安全や食品トレーサビリティに貢献していく考えだ。

お問い合わせ先

**WAM!NET**  
日本ワムネット株式会社  
新規開発プロジェクト室

〒104-0033  
東京都中央区新川1-5-17 新川Mビル9階  
TEL: 03-5117-2150(代表) FAX: 03-5117-2155  
E-mail: mpf-info@wamnet.jp